

TOPICS
「展示」

横浜市歴史博物館・神奈川大学日本常民文化研究所主催展覧会

「和船と海運」

神奈川大学会場

「順風満帆 千石船——和船の構造と技術——」

会場：神奈川大学横浜キャンパス 3 号館 神奈川大学展示ホール 企画展示室

会期：2017 年 1 月 30 日（月）～ 3 月 17 日（金）※巻頭カラー 17 ページに図録を掲載

展示関連講座：「船絵馬を読み解く」 日時：2017 年 3 月 17 日（金）14:00～15:30

講師：昆政明 会場：神奈川大学横浜キャンパス 3 号館 206 教室

同時開催：横浜市歴史博物館会場「津々浦々 百千舟——江戸時代横浜の海運——」

会期：2017 年 1 月 28 日（土）～ 3 月 20 日（月・祝）

より専門的な展示の期待にこたえる

——大学博物館展示の試み——

昆 政明



写真 1 弁才船実物大断面模型の屋根をはずして清掃（撮影／和船研究会 富永真哉氏）



写真 2 写真を大きく使用したパネルで一新

江戸時代、国内の物資輸送は弁才船を中心とする廻船によって担われていた。弁才船の中で千石（150 トン）の荷物を積むことができる大型船は千石船といわれ、和船の代表とみなされた。和船は中国船や西洋船とは異なる構造で、造船方法や船大工道具もそれに応じた独特のものが使われている。本展では弁才船と中心とした和船の特徴を、船舶模型・船大工道具などの資料とわかりやすいパネルで紹介した。

本学会場の展示構成は、近藤和船研究所旧蔵資料を中心としながらも、和船の特徴をより分かりやすく紹介するため、中国船の 10 分の 1 模型と、中国の船大工道具、建造技術に関する説明パネルを配置し、それに対応して従来の展示パネルを一新した。

本展では扱うテーマを横浜市歴史博物館会場では「江戸時代横浜の海運」、本学のテーマを「和船の構造と技術」と定め、それぞれの得意分野を生かした展示内容とした。結果、多くはまず身近でなじみのある横浜市歴史博

物館（以下歴博）会場を観覧し、海運に重要な役割を担った「和船」について、より深い知識を求めて神奈川大学（以下神大）会場を訪れる、といった傾向がみられた。神大会場での観覧者の特徴は、船に関する知識の豊富な方々が多く、観覧時間が狭隘な会場にもかかわらず数時間に及ぶ場合も多かったことである。歴博会場でも「船」に関する一般的には必要十分な展示が行われていたが、別会場として大学博物館の展示が行われており、そこに「和船」の専門的展示を期待しての来場であったと考えられる。神大会場では、和船の構造や造船技術を最新の調査成果である中国船との比較で展示しており、航海技術に関しては実物大復元船の記録を基にした、やや専門家向けの展示を行っていた。このことが、来場者の期待に答えたことになり、長時間の観覧につながったものと思われる。

神大会場は大学休業中で土日休館という悪条件にもかかわらず、受付で確認した入場者数として 800 名を数えた。これは、歴博との共同開催による成果と考えられる。大学博物館としての役割を考える場合、観覧者の期待するのは同一のテーマであっても、一般の博物館より専門的内容であり、他館との共同開催が可能であれば、その専門性がより生かされるといえる。

本企画展における神大会場の展示準備作業は、「和船研究会」の皆さんの協力を得て行った。和船研究会は 2014 年に開催された、横浜キャンパス 3 号館展示ホール開設記念講座「和船の世界」の参加者を中心に、昆研究室で月 1 回開催される勉強会に参加している方々が立ち上げた任意の会で、様々な分野の方々と構成されている。展示資料の扱いには専門の知識・技術と細心の注意が求められるが、他の博物館のボランティアや、和船の動態保存、船舶研究などの経験豊富な方々で、それぞれの役割を危なげなく果たしていただいた。資料や展示パネルの入れ替えで、展示室の雰囲気が大きく変化していく様子を目の当たりにして、博物館展示の面白さに皆さん興味津々で、一方博物館内部の者には気づかない指摘や斬新な提案もあり、互いに有益な試みであった。

神大会場最終日には、展示関連講座「船絵馬を読み解く」を開催した。「船絵馬」とは「船を描いた絵馬」のことであるが、この講座では特に江戸時代後期から明治時代にかけて、大阪と蝦夷地（北海道）を結んだ「北前船」に関連した廻船問屋、船頭や乗組員が奉納したもので、北前船の起点大阪の「船絵馬師」によって描かれたものを紹介した。これらの船絵馬の特徴は正確な船体描写、豊富な奉納数で、作者ごとの描き方の特徴、時代による船体装飾の変化など、船絵馬から得られる情報について実例を上げて紹介した。地味なテーマにもかかわらず当日は 90 名近い方々の参加を得、展示会場も多くの入場者で賑わっていた。



写真3 企画展会場入り口



写真4 一新した展示パネル



写真5 賑わう展示会場



写真6 関連講座会場